

5/12 木

# トヨタ営業益2.9兆円

## 3月期 円安追い風、過去最高

トヨタ自動車が11日と発表した2022年3月期決算(国際会計基準)は、本業のもうけを示す営業利益が前年比36・3%増の2兆9,956億円となり、6年ぶりに過去最高を更新した。世界販売が堅調だった

うえ、円安がもろけを膨らませた。ただ、原材料価格の高騰が重しとなり、23年3月期は2割の減益を見込んでいる。▼0面=暗雲も

うえ、円安がもろけを膨らませた。ただし、原材料価格の高騰が重しとなり、23年3月期は2割の減益を見込んでいる。▼0面=暗雲も

もろけを示す純利益は26・9%増の2兆8501億円、売上高は15・3%増の3兆3795億円で、これらも過去最高を更新した。

世界販売は4・7%増の約951万台と、過去2番

として過去最高。最終的な

目標の高い水準だった。主力

プリッド車の販売が世界で2割超伸びた。  
昨年春に想定した水準よりも7円ほど円安ドル高となつたことで、営業利益が前年より6100億円分押し上げられた。トヨタは国内生産を重視し、約6割を輸出に振り向けている。円安効果で輸出の採算性が上がった。海外事業も円換算でのもうけが膨らんだ。

新型コロナの影響や半導体不足で、トヨタは断続的な減産を強じられた。一方で新車需要は急回復した。

トヨタの通期決算の動き  
3月期。20年までは米国会計基準。  
21年から国際会計基準。23年は見通し  
(兆円) 売上高(右目盛り)  
営業損益(左目盛り)

年	営業損益(兆円)	売上高(兆円)
08年	1.5	20.0
10年	1.0	22.0
12年	0.5	24.0
14年	1.5	26.0
16年	2.5	28.0
18年	3.0	30.0
20年	3.5	32.0
22年	3.8	34.0
23年	3.0	36.0

23年3月期は一転、営業利益が19・9%減の2兆4千億円、純利益は20・7%減の2兆2600億円と予想。世界販売は前年を上回る990万台で、売上高も5・2%増えて33兆円になる見込みだが、鉄やアルミニウムの原材料価格が高騰したことによる見込みだが、鉄やアルミニウムなどの原材料価格が高騰し1兆4500億円分の費用増になりそうだという。近健太副社長は11日の会見で「市況変動は過去に例のないレベルだ」と語り、さらに原価低減に努める考え方を示した。(奈良部健、近藤郷平)